

## 平成21年度 八王子市保健所協議会議事概要

1. 日時 平成22年2月24日（水）午後1時30分～午後3時
2. 場所 八王子市保健所 別館1階
3. 委員（平成22年2月現在）

	氏名	役職	備考
1	赤上 晃	八王子市医師会長	会長
2	鈴木 玲央	市議会議員	
3	陣内 泰子	市議会議員	
4	近藤 充	市議会議員	
5	小林 鈴子	市議会議員	
6	両角 穰	市議会議員	
7	赤瀬 眞五	東京都八南歯科医師会長	
8	茂木 徹	八王子薬剤師会長	
9	菱山 信也	八王子獣医師会長	
10	白石 勝子	八南助産師会長	
11	高澤 謙二	東京医科大学八王子医療センター長	
12	北川 泰久	東海大学八王子病院長	
13	関谷 和久	八王子市社会福祉協議会長	
14	佐々木 武磨	八王子市民生児童委員協議会副会長	
15	峰尾 孚	八王子食品衛生協会长	
16	浜田 晋吾	八王子集団給食協会长	
17	橋本 清明	八王子精神障害者家族会代表	
18	秋間 利久	八王子市町会自治会連合会長	
19	田辺 隆一郎	八王子商工会議所会頭	
20	星 旦二	首都大学東京 教授	
21	平岡 都	市民公募委員	
22	本多 洸一朗	市民公募委員	
23	小島 義雄	八王子警察署長	
24	佐藤 伸二	高尾警察署長	
25	中川 司	南大沢警察署長	
26	櫻井 高清	八王子消防署長	
27	岡本 由美	八王子市立小学校長会代表（緑が丘小学校校長）	
28	吉田 和夫	八王子市立中学校長会代表（城山中学校校長）	

#### 4. 議事

- (1) 平成20年度事業実績及び平成21年度の主な事業実施状況について
- (2) 新型インフルエンザ対策について
- (3) その他

【質疑応答】

質問 1：有床診療所の立入り検査について、何か大きな問題点というのがありますか。

回答 1：有床診療所の一般的なイメージとしては、産科の診療所に1週間程度、妊婦さんや出産された方が入院するというようなものが代表的な例です。19年度に立入り検査をスタートしましたが、当初は35施設ほどの有床診療所がありました。その内、1/3程度の施設がベッドを使っていないことから、無床診療所に切り替わりました。現在は20施設ほどになっています。立入り検査に際しては、特段の問題もなく、しっかり管理されているという報告が届いています。

質問 2：八王子市内にある病院で、廃止に至ったというケースを耳にしておりますが、もし把握していれば、報告していただけますか。

回答 2：八王子市保健所が監視対象としているものは、八王子市内の個人経営の診療所が主になっております。病院ということにですと、東京都の立入り監視の対象施設となります。御質問にありますように、最近廃院予定であるという病院の情報は入っております。その病院に対しては、東京都の医療監視員が立ち立ったという話を聞いております。そういう施設が八王子市内に1か所あるということは、情報としてつかんでおります。

質問 3：熊本市では、犬猫を殺さないという取り組みが既に始まっていて、かなりの成果をあげていると思います。今の取り組みは分かりますが、できたら将来的にどういう方向性でいくか、もしあれば教えていただきたい。もし無いのであれば、ぜひとも市民の力を借りて、基本的にはできるだけ殺さない方向の計画があるといいなと思いますが、いかがでしょうか。

回答 3：保健総務課で、動物愛護あるいは狂犬病予防という、動物の関係を受け持っております。犬は狂犬病予防法等で飼い主の義務がありますから、捨て犬ということは99%無いという状況です。猫の方は規制が無いということもあり、なかなか野良猫が減っていかない状況です。他自治体の状況では、不妊・去勢手術をした場合に一定の助成を行政側がしながら、野良猫を減少させていくという取り組みをしているところが多いようです。効果も出ていると聞いています。担当としてもそういうことを心がけて事業展開していきたいと考えております。講習会、講演会を行い、とくに猫をたくさん飼っている方、あるいは猫に被害を受けている方の両方の募集をして、その中で意見交換をしながらお互いの理解を深めてもらい、市として双方がどういう考え方を持っているかを把握しながら、今後の展開を考えさせていただいています。動物愛護の観点から考えれば、処分される犬や猫をより少なくするのが、私どもの業務の目的だろうと思っています。よりいい方向に今後展開していきたいと思っています。ぜひ御指導をいただければ、ありがたいと思います。

質問 4：精神保健福祉及び障害等支援のことについて、いずれも保健所が東京都の保健所有的时候に、市の保健センターとは区別して、都の保健所として特化して行ってきたものと思っています。市設置保健所になり、市の保健師への精神保健福祉並びに障

害児支援のスキルの伝達や共有ということについて、どのように進んでいるのか、また、その効果や進捗など、3年が経過したということもありますし、感触としてでも結構ですので、教えていただきたいと思います。

**回答4：**人材育成の一環であると思っています。精神とか障害ということではなく、保健師という職種の横の連絡会を立ち上げています。メンバーとしては、保健所や保健センターのほか、数か所の課にまたがっております。また、精神の分野では月に一度、保健所が精神の困難事例に関して外部の方をアドバイザーとして呼びし、御意見、御指導をいただく機会を設け、関係する部署の職員が勉強する機会を設けております。また、どの仕事でもそうだと思いますが、人を育てるということは非常に難しいと思います。教える方の都の職員も、教わる方の市の職員も非常にがんばっていると思います。意識が変わってきたということは感じています。

**質問5：**エイズ相談、HIV抗体検査について、相談件数が思っていたより多かったのでびっくりいたしました。検査を受けている方も多いのだということが分かったのですが、この相談や検査というものの実施状況や内容、それと相談内容はどのようなものがあるのでしょうか。

**回答5：**検査の方は、基本的に毎週水曜日の午後、保健所で採血検査を行っています。当然、匿名で行っています。年齢等も聞きません。相談はその場での相談もありますが、電話相談が多いです。保健所にいらしてというのは、勇気がいるのだと思います。具体的には、こういうことをしたのだけれど感染の危険はないか、というような相談が多いと思います。

**質問5-2：**検査は毎週水曜日の午後ということでしたが、水曜日だと仕事を休んで行くようになります。検査に行きたいけれども仕事を休めず、なかなか行けないという方もいて、そういう御相談を受けることがあります。近隣市では土曜日に開催しているところがあるようですが、そういう方向性というのも、今後考えていただきたいと思いますが、どうでしょうか。

**回答5-2：**東京都内では、月に1度土曜日に行っているところや、平日の夜間に行っているところがあります。今のところ、八王子市では、毎週1回の定期的なもの、年に2回、6月と12月の土曜日にイベントとして行っている状況です。平日夜間や土日も含め、さまざまなことで機会の拡大を考えていく必要はあると思っています。

**質問6：**保健所の課題として職員の確保ということがありましたが、2年後は市が独自に全部行っていかなくてはならないというお話でした。専門職の集団なので、保健所長、保健対策課長はドクターでいらっしゃる。それが法の決めということでございます。そこで所長にお伺いしたいのですが、今後保健所を市で運営していくにあたって、職員の能力の確保、モチベーションの確保など、とくに医師免許をお持ちの方の確保と、人材を活用していく道を広げられないかという考えについて、もしお考えがあればお伺いしたいと思います。

**回答6：**職員のモチベーションは確かに大事なことであると思っています。私を含めて管理職を中心に、できるだけ職員のモチベーションが上がるように努力しております。

す。目標を示して、やる気を出させるような形で行っております。引き続き行っていきたくと思います。また、医師の人材確保につきましては、市の単独では難しいと思います。東京都との人事交流の中で確保していくべきではないかと思っています。そういう方向で市の職員課には話をしています。

**質問7：**獣医師ですが、八王子市でも経験者採用ができるようになりましたから、獣医師についてもその適用の対象だと思います。獣医師の勤務医というのは少ないですが、東京都や他市、他県には獣医師がいます。そういうところから任用するというのが、今後大切な事業のひとつになります。市の内部でよく検討して枠を確保する。保健所政令市への移行には、プロパーのドクターなり、獣医師が必要であると思います。東京都に全部お願いしていると、急にいなくなってしまうから、それを頭の中に入れておいていただきたいと思います。いかがでしょうか。

**回答7：**獣医師につきましては、医師とは違い、一般行政職として採用しております。給料表も医師の給料表を使うのではなく、一般行政職と同じ給料表を使うこととなります。定年も60歳ということで、医師とは別です。一般行政職と同じ扱いということになります。

職員の確保について、獣医師につきましては、生活衛生課の食品衛生、環境衛生あるいは保健総務課の動物衛生といった職場で活躍をいただけるという職種になりますので、いずれにしても将来の組織を考えた採用を、職員課と検討しています。経験者採用も今年度から行っている経過もあります。6年目以降も遺漏のないように努めていきたいと思っています。

**質問7-2：**東京都の獣医師、薬剤師、看護師を含めて、職種は何になっていますか。一般行政職ですか。

**回答7-2：**東京都は一般行政職ではなく、そういう職による給料表を作っていると思います。

**意見1：**東京都は職により給料表を作っていると、私もそう記憶しています。だから市もそういうふうに直す必要があります。薬剤師もそうです。薬剤師は薬剤師で給料表を作るべきです。東京都や他市、他県の状況を見て、市の行政に対してここから声を上げないと、獣医師も、医師も、一緒にいいじゃないかということになる。今年は医師の給料表を作ることにしましたから、それに準じて近い将来は、今申しあげたようなことをお考えいただくようであると思います。それは獣医師会や薬剤師会の先生の意見をよく聞いた方がいいと思います。たぶん私と同じだと思います。

**意見2：**獣医師も薬剤師も医師と同じように、6年間で卒業ということになりましたから、基本的には一般事務ではなくて、別枠の給料体系がある方が私は望ましいと思います。もう一点、歯科医師が常勤でいらっしゃいません。ぜひ歯科医師も常勤で入れる道を探っていただきたいし、できたら薬剤師も獣医師も6年間かけて資格をとっている訳ですから、やはりワンランク上の給料体系、もし一般行政職だとしても、そ

れぐらいの高い位置付けでないと、なかなか優れた人材を確保するのは難しいと思います。給料体系もいい方向にしていきたいと思います。

**意見3**：八王子市の男性の平均寿命は、80.2歳。これは2005年のデータですけれども、女性は85.9歳です。もちろん世界的に見たらトップレベルですが、東京の23区と市の全体で見ると、女性は23番目です。保健所を持つ政令市としては、もう少しこれをあげるべきで、そういう目標を持っていいと思っています。今回の新型インフルエンザは、日本全体で死んだ方は100人ちょっとです。それより、八王子市だけで120人も自殺しているのです。この事業概要に、八王子市全体でどういう病気でどういう年齢の人が亡くなっているかという数字があり、非常に貴重なデータだと思います。大事なのは、30歳以下で30%の47人が亡くなっていることです。65歳で死んでいる方が8割もいます。毎日100人自殺していて、年間35,000人自殺している訳です。何とかして予防できるという視点をもっと出して、そういう議論になるのかなと思っていました。ぜひ120人の自殺を100人にしようとか、5年経ったら半分の60人にしようとか、大きな目標を掲げるなど、八王子にとって今の課題は何なのかというところをみんなで共有しながら、新しい取り組みをして、新しい八王子市を目指すのだというビジョンなり抱負をもっと議論したいというのが私の本音の意見です。亡くなった方の家族のサポートも極めて重要なことなので、そこにも膨大な力量を注いでいただき、自殺が感染しないように、家族に散らばらないように、ぜひ応援していただきたいと思います。人がこんなに多く死んでいることをもう一度みなさんと共有するとともに、八王子の寿命を延ばす最も有効な手段は自殺を少なくさせることだというのが、私の意見です。

**意見4**：保健所協議会の委員の中に5名の市議会議員の先生方がいらっしゃいますので、ぜひ保健所を活性化するための予算組みを、そういうことを中心に行っていたらありがたいなと思っています。薬剤師会では薬物の問題も行っていましたが、皆さん予算がないということなので、保健所がきちんと運営できるような体制を考えていただきたいと思います。

また、インフルエンザワクチンのことですが、八王子独自のワクチン接種というものができないのかなと思います。東京都の中から八王子の保健所の枠みたいなものを一部もらうことができれば、どうしても必要な場合、八王子市の中でできたらいいなと思います。

**意見5**：私どもで最初に、都内初の新型インフルエンザの患者を診察させていただいて、治療させていただきました。その時点においては、弱毒だとかそういうことは全く分からない状態でした。完全に隔離した状態でした。一切病院施設のほかの診療部分には触れないという体制をとりました。初期の対応というのは、後でどういうふうに波及するか分からないという体制でやらなければならない。この点は慎重に対応しなければならないと思っています。